



国が平成25年を「メンテナンス元年」と位置付け、インフラ老朽化対策に向けた提言を行っています。本誌では、国の情報や県の長寿命化の取組をわかりやすく紹介していきます。

今回の特集！ 下水道の長寿命化 Now！

Q. 下水道の管は丈夫なの？

A. 静岡県下水道は普及してから30年くらいたっているんだよ。
下水道の管は道路の下に埋められているところが多いんだけど、管が古くなったり、車が走るときの振動などで傾くことがあるんだよ。だから定期的に点検して、管の様子を見なくちゃいけないんだよ。

Q. 下水道の管の中はどうやって点検するの？

A. 下水道ってみんなが知っているとおり、普段から水を流さなくちゃいけないから止めることができなかつたり、生活排水を流すことで有毒なガスが発生したりするから、人が入って点検するのが難しいんだよ。だから、小さい管では、テレビカメラによる点検をやっているよ。



静岡県で下水道の長寿命化推進を担当している生活排水課鈴木さんにお話を伺いました。

人力による点検（大きい管の場合）



テレビカメラによる点検（小さい管の場合）



Q. 長寿命化のために工夫していることはありますか？

A. 下水道の施設はいろいろな設備からできているんだよ。それぞれの設備の部品は長持ちするものとしなものがあるから、点検して壊れそうなものについて早目に交換しているよ。早目に交換することで、それぞれの設備の寿命が長くなって、下水道施設全体が長持ちするようになるんだよ。

長寿命化工事（例：汚泥掻き寄せ機の掻き寄せ板の交換）

着手前



完成



10月28日 次世代社会インフラ用ロボット現場検証見学会



10月28日、国道1号浜名大橋にて、静岡県道路メンテナンス会議西部地域部会（国土交通省）による「次世代社会インフラ用ロボット現場検証見学会」が開催されました。

今後増大するインフラ点検を効果的・効率的に行い、また、人が近づくことが困難な災害現場の調査や応急復旧を迅速かつ確に実施する実用性の高いロボットの開発・導入を促進することを目的に、国土交通省が「橋梁」「トンネル」等の分野で現場実証を行っているものです。

当日は橋梁点検に関する飛行ロボットを使った検証が行われ、静岡県道路メンテナンス会議の構成員である国や県、市町の技術者や、コンサルタント、施工業者等が見学を行いました。

静岡県においても、こうした技術が実証されれば、段階的な導入を考えていきたいと思えます。



11月12～13日、18～19日橋梁点検・補修設計研修を開催しました

静岡県建設技術監理センターでは、県職員及び市町職員の技術力向上のため、土木職員向けの技術研修を行っています。

11月12日～13日袋井土木事務所、18日～19日沼津土木事務所にて、橋梁の維持管理に必要な知識と技術の習得を目的に橋梁点検・補修設計研修を実施しました。

この研修は橋梁の点検や補修設計に関する知識や技術を座学で学ぶだけでなく、実際に橋梁の現場で点検のポイントを確認することでより理解を深めます。

国土交通省でも点検技術者を育成する研修が多く行われますので、こうした機会を利用してより多くの技術者を育成していきたいと思えます。



11月20日 第1回社会資本長寿命化推進委員会を開催しました

静岡県の社会資本における長寿命化を進めるため、交通基盤部長を委員長に交通基盤部各局の局長を委員とした社会資本長寿命化推進委員会を毎年度開催しています。

今回の委員会では、4月に総務省から策定要請があった「公共施設等総合管理計画」について、事務局である管財課と社会資本長寿命化推進委員会進捗管理部会が作成した案の審議を行い、委員会案としてとりまとめました。

次回は各工種における長寿命化の取組と平成27年度に行う取組について話し合いたいと考えています。



<第15号の発行にあたり>

今回は、早くから施設の長寿命化に取り組んでいる工種の一つである下水道の取組を特集しました。少しでもみなさんに取組を知っていただければ幸いです。

また、新たな技術の実証実験や点検技術に関する研修に参加し、参加者と話す機会があり、まだまだ点検に関して力を掛けていかなければいけないと感じました。

静岡県としても他県や他の政令市から意見や情報を収集し、さらに長寿命化計画の推進に活かしていきたいと思えます。

発行・編集
静岡県建設技術監理センター
技術支援第2班 沼野・中村

〒421-0122
静岡市駿河区用宗1丁目10-1
TEL 054-268-5004
FAX 054-258-6030

「静岡県社会資本長寿命化計画の取組」「アットダム」のバックナンバーについてはホームページをご覧ください。

静岡県 長寿命化

検索